

## 第 8 回「あいち就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム」結果概要

### 1 令和 4 年度の主な取組状況及び来年度の予定

構成機関・団体		令和 4 年度取組概要	実績等（12 月末時点）	令和 5 年度予定（変更点）
全構成機関・団体		<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職氷河期世代を対象とした限定求人・歓迎求人や、就職面接会等への積極的な参加勧奨</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特設 HP、Facebook や LINE 等の SNS を活用した事業周知等</li> </ul>	
愛知労働局		<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省就職氷河期世代活躍支援ポスターや愛知労働局独自のポスター等の展開</li> <li>・就職氷河期世代への正社員職業紹介</li> <li>・特定求職者雇用開発助成金、キャリアアップ助成金等各種助成金の支給</li> <li>・地域若者サポートステーション（サポステ）の取組強化</li> <li>・就職氷河期世代の就労支援に関する連携協定の締結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県内のスーパー71 店舗に掲示（4 月）</li> <li>・職業紹介件数：25,493 件</li> <li>・正社員就職件数：4,853 件</li> <li>・助成金支給実績：3,343 件</li> <li>・助成金活用による正社員化：2,677 件</li> <li>・サポステ新規登録者：512 人</li> <li>・就職件数：404 件</li> <li>・定着支援：1,460 件</li> <li>・西尾市とハローワークとの定例ミーティング（R4.7 月から毎月開催）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○以下の 3 点を重点的に実施</li> <li>・就職支援コーディネーターによる就職氷河期世代限定求人や歓迎求人の開拓・確保を促進</li> <li>・職場体験・実習（インターンシップ）に参加意欲のある求職者と受入先事業所とのマッチング向上を図る説明会の開催</li> <li>・就職後のオンライン相談や職場訪問等の定着支援をより丁寧に実施</li> </ul>
愛知県	労働局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアコンサルタントや臨床心理士等による個別相談を実施</li> <li>・就職氷河期世代就職支援事業の実施</li> <li>・就職氷河期世代のデジタル人材を育成する雇用型訓練の実施</li> <li>・地域若者サポートステーションを活用したメンタルヘルス相談の実施</li> <li>・地域若者サポートステーションにかかる市町村会議の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数：1,592 件（あいち若者職業支援センター）</li> <li>・参加者数：122 人</li> <li>・正規雇用決定者数：19 人</li> <li>・訓練修了者数：10 人</li> <li>・訓練修了者の就職決定数：7 人</li> <li>・相談件数：351 件</li> <li>・開催回数：尾張・三河地域で各 1 回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就職氷河期世代就職支援事業</li> <li>・模擬就職を通して基礎的なビジネススキルを身につけるコースと、職場実習を行わずに研修で就職スキルアップを図り、早期就職を目指すコースに分けて実施</li> <li>○デジタル人材を育成する雇用型訓練</li> <li>・定員を 15 人に拡充</li> <li>・選考開始前に自主学習用のテキストを配布し、早期に IT スキルの向上を図る</li> </ul>

○市町村の労政担当者と福祉担当者、サポステ担当者が一堂に会する会議を開催し、サポステの周知と市町村との連携事例の横展開を図るとともに、意見交換を通じて、横のつながりを作る場を設けた。  
○顔の見える関係ができ、今後連携しやすくなったというお声を多くいただいた。

構成機関・団体		令和4年度取組概要	実績等（12月末時点）	令和5年度予定（変更点）
愛知県	福祉局	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛知県社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付への補助</li> <li>市町村プラットフォームとの連携</li> <li>生活困窮者自立支援事業の充実</li> <li>生活困窮者自立支援員の養成研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助額：40,029,000円</li> <li>市町村プラットフォームにおける就労準備支援事業の好事例及び地域課題の収集・共有</li> <li>就労準備支援事業の新規支援者数：17人</li> <li>家計改善支援事業の相談件数：62件</li> <li>就労準備支援事業の実施市：35市（7市増）</li> <li>家計改善支援事業の実施市：32市（5市増）</li> <li>相談支援等の合同実践研修を初めて開催</li> </ul>	○現場のニーズに対応した研修の充実
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的なケースの支援事例を取り上げ、グループワークを実施。</li> <li>○参加者の満足度が高く、また、支援困難事例の共有ができた、相談支援員同士のつながりができたという好評の感想もいただいた。</li> </ul>			
愛知県	保健医療局	<ul style="list-style-type: none"> <li>各町村の相談窓口の現状や課題等を把握するため市町村支援員等によるヒアリングの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒアリング実施：32窓口（22市）</li> </ul>	○一般県民向け講演会として、地域において、ひきこもりに関する理解が深まるよう、一般の方を対象とした講演会を開催
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○県精神保健福祉センターに配置した市町村支援員が市町村を訪問し、各市町村における相談窓口の明確化や、相談支援体制の構築に向けた技術的支援を実施。</li> <li>○ひきこもりの相談窓口を明確化している市町村数は、平成31年3月時点：29→令和4年3月時点：46市町村に増加。</li> <li>○ひきこもり対策に関する今後の方向性等を示す報告書の中で、新たな好事例の紹介を行い、市町村の支援体制の構築を図る。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>個別支援会議等への参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別支援会議：2回</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種専門チーム検討会議の開催</li> <li>市町村の支援者等を対象とした研修会を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月17日検討会議開催</li> <li>10月3日基礎研修：50回線</li> <li>10月4日専門研修：46人</li> </ul>	
中部経済産業局	<ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業等への就職氷河期世代人材確保事業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業を対象とした意識啓発セミナーの開催：オンライン1回</li> <li>中小企業等と就職氷河期世代のマッチングイベントの開催：対面2回、オンライン1回</li> </ul>		

## 2 事例紹介

### (1) 「愛知県労働局就業促進課の就職氷河期世代を中心としたメンタルヘルス相談事業の取組」

○発表者	NPO法人ICDS ちた地域若者サポートステーション 井戸 千尋 氏
○内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・NPO法人ICDSは、愛知県内でサポステを2拠点、なごや若者サポートステーションと、ちた地域若者サポートステーションを運営しており、各サポステにおいて愛知県のメンタルヘルス事業による臨床心理士/公認心理師を配置している。</li><li>・メンタルヘルス事業は、就労というより、大人の神経発達症の受容に繋がっているケースが多い。</li><li>・事業が無かった頃は、サポステ相談員のキャリアコンサルタントが面談等で特性があるのかもしれないと思っても、医療に携わる者ではないので、なかなか医療機関へのリファーへ時間がかかってしまうということがあった。</li><li>・この事業が始まったことによって、社会福祉協議会等の福祉機関や医療機関との連携がとても強くなり、それによって1年かかっていた方が半年で、というようなケースも多く見られるようになった。</li></ul>

### (2) 「ハローワーク西尾と連携した取り組みについて」

○発表者	西尾市子ども・若者総合相談センター「コンパス」(一般社団法人パーソナルラボ) 内田 啓太 氏
○内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和4年1月に、西尾市とハローワーク西尾で、全国初の就職氷河期世代の就労支援に関する連携協定を締結した。</li><li>・この協定をきっかけに定期的な議論を重ねたところ、多様な価値観や特性に対応した柔軟な支援が必要ということで「マイペース就活」というプロジェクトが発足した。</li><li>・「マイペース就活」は、まずコンパスとハローワーク職員と当事者で3者面談を行い、その先に職場体験や企業訪問、ハロワ体験ツアー等様々なメニューを用意し、臨機応変に自分のペースでメニューを選択して進められる企画である。</li><li>・始めたばかりで実績はないが、20～30代の相談、特にひきこもり当事者からの相談が増えるとともに、ハローワークへのハードルが下がり、なかなか踏み出せなかった利用者達が就労に向けて動き出した。</li></ul>

### (3) 「令和4年度あいち就職氷河期世代活躍支援プラットフォームを活用した支援に係るご報告」

○発表者	株式会社日本能率協会マネジメントセンター(事業受託者) 小田 義喜 氏
○内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・愛知労働局の委託を受け、セミナー、就職フェア(シンポジウム)、企業説明会等の氷河期世代向けの就職イベントを実施した。</li><li>・合同企業説明会では、参加者に自由にブースを回っていただくのではなく、コーディネーターが一人一人に寄り添い、一緒に各企業ブースを回ることで、参加者の不安を解消し就職活動への自信につながった。</li><li>・一方で、デジタル周知広告のアクセス数の割には参加者が非常に少なかったため、今後、オンラインイベントを開催し検証する。</li><li>・当事業のメインイベントである講演会では、杉村太蔵氏をお招きし、氷河期世代支援の必要性を社会一般に広く周知するとともに、実施にあたっては主要駅でのデジタルサイネージやポスター等で大々的に広告を掲載し、社会気運の醸成を図った。</li></ul>